

ステップ2 まちの地域福祉“ここが気になる”を出し合ってみよう！ ※みんなの言葉や思いをつなぎ合わせました。

「地域の福祉」の現状と問題点を整理する

共通キーワード	推進委員会・策定班会議での意見（現状・問題点）	具体的取組	主体・役割（強み）
<p>●人づくり・参加</p> <p>仕事を通じて社会とかがわりがあった世代は、退職後、これまでに培った知識や経験を生かし、これからは地域活動を通じて社会とつながりを持ちたいというニーズがあるにも関わらず、きっかけをつかめていません。また、若い人の活動への参加に対する期待は大きいですが、その実現には、入口に少し工夫が必要です。それぞれ持っている「やりたいこと」や「関心事」に合わせ、今までに地域づくり活動や福祉活動にかかわりがなかった人に対する多様な参加の切り口をつくっていくことが大切です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動にどう入っていけばよいか分からない。声をかけてもらえばいつでも協力する、と言う人は結構いる。【推②】</li> <li>高齢者が持っている「時間」や「知識」、「経験」を生かせていない。【策②】</li> <li>若い人は地域活動に対する関心（社会のできごと）に対する関心が低い。「かっこいい」「かわいい」などが活動の入口になりそう。【推②】</li> <li>「みんなで」（やる）という考え方が薄れている。【推②】</li> </ul>	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
<p>●組織（主体）の進化</p> <p>地域住民自治組織をはじめとした市内のまちづくり活動団体においては、役員のみ手不足や、シニア世代における就労期間の長期化などの背景から参加者が減少し、組織が硬直化、一部の活動者に負担がかかり、事業もマンネリ化している状況が見られます。新たな主体（NPO法人など）の存在やかかわりが期待される中、「円卓会議」（多様な主体が考え話し合う場）もうまく機能しておらず、どのように組織（主体）の「たなおろし」（リニューアル）していくことができるかを考える必要があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>NPO法人について、運営に余裕がない。会計処理のノウハウなどに関する相談がある。【推②、策③】</li> <li>子ども会が衰退。親が世話役を引き受けたくないことから、子どもを加入させず、なくなった地域もある【推②】</li> <li>特定の人（高齢者層）に役員が集中している。【推②】</li> <li>それぞれの団体は活動しているが、連携するという土壌が育っていない。【策③】</li> <li>「円卓会議」がうまく機能していない。【策③】</li> </ul>	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
<p>●情報共有</p> <p>市内では、さまざまな分野の主体や地域が行う取組、行政や社会福祉協議会が実施する制度やサービスのメニューがありますが、その情報が十分に市民に行き届いていないようです。また、個別ケースから把握できる暮らしの中での課題を積み上げると、「地域課題」として見えてくるものがあるはずですが、これを地域づくりや地域の福祉活動に充分に生かせていません。こうした情報を必要な時に必要な所（人）へ提供したり、共有したりできるように仕組みを整えておく必要があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>よい取組をしているのに、広く知られていない。知る機会もない。PRが不足している。【推②】</li> <li>地域福祉に関する情報格差が生まれているのではないかと（制度、サービスなど）【推②】</li> <li>個別の相談ケースからわかる生活課題を「地域課題」として地域づくりに生かせていない。【策③】</li> <li>日頃から、かかわりのない主体や部署の情報は入手しにくい。【策③】</li> </ul>	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
<p>●社会的孤立への対応</p> <p>高齢者の一人暮らし世帯の増加に加え、子どもの貧困、生活困窮者（世帯）、ニートやひきこもり（長期間就労していない人）など、地域社会と切り離されがちな人々が増えつつある中で、こうした人々を地域全体で見守るとともに、アプローチのきっかけをどう見出し、関わり続けていくことができるかを考える必要があります。また、障がいのある人（身体、精神、児童含む）の支援については、制度の狭間があり、このためには地域と行政・社協との連携が欠かせません。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>重度障がいのある子どもの居場所がない。【推②】</li> <li>個人情報支障となり、早期発見が難しく、介入しにくさにつながっている。【推②、策③】</li> <li>働かない若者は、地域社会と切り離され、生活困窮に陥るケースが多い。【策②】</li> <li>就労支援の仕組み（場の確保）ができていない。【策③】</li> <li>生活困窮や貧困は世代間で連鎖。子どもにも影響がある。（自宅に帰っても学習の場がないなど）【策③】</li> </ul>	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
<p>●新しいつながり</p> <p>人々の生活スタイルや価値観が多様化、高度化、複雑化し、地域福祉のベースとなる「人間関係」も希薄化しています。特に、都市部では、町内会や自治会に加入しない人も増えてきました。こうした、さまざまな考え、課題やニーズに応じていくためには、新たな主体の存在や、他分野との連携を視野に入れ、新しいつながりの形を考えていくことも大切です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「できれば他人に関わりたくない」という生活スタイルが増えている。【推②】</li> <li>自治会加入率が低い。【推②】</li> <li>「共同体」の意識が変わってきている【推②】</li> <li>CSRと地域福祉とつなげるアイデアを考える【推②】</li> <li>ボランティア活動だけでなく、コミュニティビジネスとして成り立つ地域福祉活動を考える。【推②】</li> </ul>	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

